上田さんの「北村透谷」を読んで

７組　山本　哲照

６月１４日付上田謙二さんの「北村透谷」を拝読。幼かった頃のいろいろなことどもを思い出しました。私は本サイトに寄稿した**「佐倉久隆君を悼む」**や**「箱根駅伝の思い出」**などでも述べた通り小田原市の**「万年四丁目５５６番地」**（旧住居表示）で昭和１５年１２月１２日に生まれました。現在の住居表示では**「小田原市浜町三丁目１番１０号」**です。国道１号線のファミリー・レストラン**「ロイヤル・ホスト」**があるところです。このブロックには**「学校法人高田学園」「高田材木店」「小島材木店」「出光給油所」「湘南自動車工業」**などがありました。**私の家は**借家（家主は籠清）で**高田学園と小島材木店との間の小路**を入ったところにありました。この小路は入り口から見ると突き当りに家があり一見袋小路のように見えますが、左に曲がる道がありそれをさらに右に曲がる小道を行くと広い通りに出られます。この広い通りは**旧東海道で「まるう田代総本店」「海浜病院」**などがある通りです。私の家は国道から入って５０メートルほど進んだ右側です。**「学校法人高田学園」のすぐ裏側**でした。この学校は**「精華学園」**という裁縫を教える学校でした。２階建てで最盛期は女学生であふれていました。私の家とは木製か竹製の垣根で仕切られていましたが、学園の２階からは私の家は丸見えで子供の私は女学生たちからよくからかわれていました。

生家の斜め前に北村透谷の石碑

私の家の向かい側は小島材木店の住居と店舗の広大な敷地でした。塀に囲まれていましたが、私の家から歩いて２０歩くらいのところで塀が四角くくぼんでいてそこに**１本の石碑**が建っていました。石碑に書かれていた文字は**「北村透谷生誕之地」**。上田さんが書いておられるようにこの石碑は現在は国道１号線に面したマンション（オーナーは小島家当主）の一角にありますが、元はこのマンションの横の小路を入ったところにありました。つまり**昔も今も「小島家の敷地」の中にこの石碑は建てられている**わけです。このマンションは「小島材木店」の跡地に建てられたもので私の幼馴染の当主が所有し、本人も最上階に住んでいましたが現在も住んでいるのかどうかは定かではありません。彼は私より１歳年下で２、３年前までは市内で出会い、よく立ち話をしたが最近は会っていません。もし今出会うことがあれば**「北村透谷」と「小島家」との関係**がどういうものであったのか、ぜひ聞いて見たいと思っています。

現在の国道１号線にあるファミリーレストラン「ロイヤルホスト」（右側の建物）と旧小島材木店の敷地に建つマンション。間にある道を入って５０メートルくらい進んだところ、向かって右側（ロイヤルホストの裏）に私が生まれた家がありました。北村透谷の石碑はそこからさらに２０歩ほど進んだ左側（マンションの裏）にありました。現在この石碑はマンションに向かって左の敷地内に立っています。国道１号線に面しています。

上左の写真のようにマンション敷地内の一隅にフェンスに囲まれて建っています。私が訪れた日は何かの「幟」が建っていて目障りでしたが、その後は取り払われていました。右の写真は正面から撮影したものです。全体としてはかなり大きなものですが、私が幼い頃に見ていた石碑はこんなに大きなものではなかったように思います。もともとは真ん中の色の変わった部分だけの石碑だったものを後年白いコンクリートのようなもので覆って補強したものではないでしょうか？

上左の写真は小道を入って「ロイヤルホスト」を裏側から撮影したものです。レストラン本店後ろの白い建物があるあたりに私の生家がありました。右の写真の電柱があるあたりに「北村透谷生誕の地」という石碑が建っていました。

川崎長太郎もご近所だった

上田さんは文中で小田原の生んだもう一人の作家「川崎長太郎」についても触れておられますが、川崎長太郎の当時の住居も私の生家の近くにありました。「青物町」と言う商店街の通りから先ほど述べた旧東海道を横切るとすぐに海岸に出ます。当時の近辺の海岸は砂浜がかなり広く展開していました。川崎長太郎の家は砂浜のすぐ近くの堤防付近にありました。掘っ立て小屋のような茅屋だったと記憶しています。川崎本人とも付近で数回で出会ったような記憶がありますが、定かではありません。「いい加減なことを言うな！」とお叱りを享けそうですが・・・